

株主のみなさまへ

# 第85期 中間報告書

平成21年4月1日から平成21年9月30日まで

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、まことにありがたく、お礼申し上げます。ここに「第85期中間報告書」をお届けし、当第2四半期（平成21年4月1日～平成21年9月30日）の業績の概況、事業の概況、経営方針についてご説明いたします。



取締役会長 浦西徳一 取締役社長 豊田周平

■業績の概況 連結売上高は、前第2四半期に比べ1,961億円減収の3,946億円となりました。これは減産の影響などによるものです。連結経常利益（損失）は、合理化などの増益要因はありましたが、減産減収、製品価格の変動が影響し、前第2四半期に比べ293億円（前第2四半期は262億円の経常利益）減少の30億円の経常損失となりました。また、連結四半期純利益（純損失）は、前第2四半期に比べ229億円（前第2四半期は159億円の四半期純利益）減少の69億円の四半期純損失となりました。

通期（第85期）の業績予想は、売上高9,000億円、営業利益170億円、経常利益140億円、当期純利益10億円を見込んでいます（下期為替レート1US\$ = 90円と想定）。主要顧客向けの販売が好調に推移していること、収益確保のための合理化および経費の削減が順調に進んでいることから、平成21年7月31日の公表値から変更しました。なお、当期の中間配当金は、1株につき5円とさせていただきます。期末の配当金は現時点では未定です。

■当期の取り組み 当期は、昨年度から進めてきた緊急収益改善活動を継続し、さらに収益基盤の強化に向けた抜本的な収益構造改革を目指して「収益構造改革委員会」を発足し、グローバルに本社横断したチーム活動を推進しています。

事業展開では、日本で関連会社の株式会社関東シート製作所を子会社化し、「トヨタ紡織東北株式会社」に社名変更をするともに、新工場の建設（宮城県）を決定しました。また、8月には新工場の富士裾野工場（静岡県）が生産を開始しました。このほか、当社と株式会社川島織物セルコン、豊田通商株式会社は輸送機器用内装材事業を統合し、「TBカワシマ株式会社」を設立することで基本合意しました。北米では、トヨタ紡織インディアナ（TBIN）が生産を開始しました。TBINとトータル・インテリア・システムズ・アメリカ（インディアナ州）、オートモーティブ・テクノロジー・システムズ（イリノイ州）の3社で最適な生産・物流体制を構築し、地域一体となった効率的な運営を目指します。

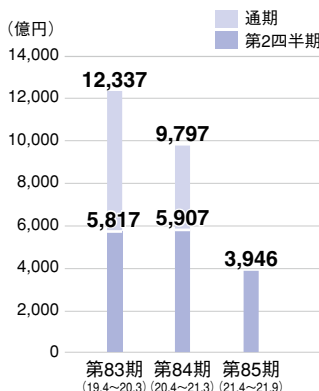
技術開発では、より軽量な新世代シート骨格「TB-NF110（電動）」や、機能性に優れた新シートアレンジメントが新型ランドクルーザープラドに、「エコプラスチック」を用いた自動車内装部品が新型レクサスHS250hに、植物由来素材を使用した自動車用シートクッションが新型プリウスに採用されました。

■経営方針 当社グループは「世界トップレベルの内装システムサプライヤー・フィルターメーカーとして、世界各地域で活躍できる真のグローバルカンパニーを目指す」をビジョンに掲げ、（1）快適な車室空間の提供（2）世界トップの自動車用フィルターの提供（3）グローバルな供給体制の確立 を目標にしています。また、2010年までを「真のグローバルシステムサプライヤーへの基盤確立のための第2の創業期」と位置づけ、「足元固めの取組み」と「将来の発展のための先行施策の取組み」を同時に進めるとともに、人材育成を図り、グローバル競争を勝ち抜いていく考えです。株主のみなさまには、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

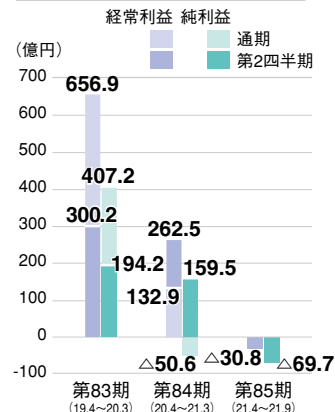
平成21年11月

## ■連結決算

### 連結売上高の推移



### 連結利益の推移



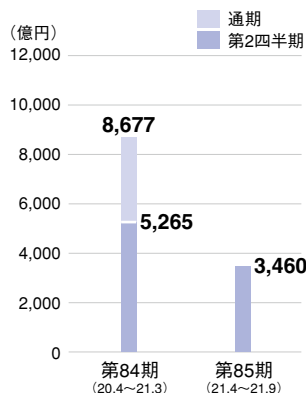
## 内装品事業

コンセプトづくりから設計・生産まで一貫して実施。積極的に新技術開発に取り組む。

当社グループは、車室空間全体のコンセプトづくりから開発・設計・調達・生産までを一貫して行う内装システムサプライヤーとして独自の地位を築いています。単にパーツやモジュールを組み合わせるのではなく、シート、ドアトリム、天井、カーペットなどから構成される車室空間を統合的・効率的にコーディネートされたシステムとしてとらえ、トータル的な美しさや快適性・安全性を追求。さらに製造から廃棄までの各段階における環境負荷の軽減を徹底しています。当第2四半期は、より軽量な新世代シート骨格「TB-NF110（電動）」と新シートアレンジメントが新型ランドクルーザープラドに、エコプラスチックを用いた自動車用内装部品が新型レクサスHS250hに、植物由来材料の自動車用シートクッションが新型プリウスに採用されました。

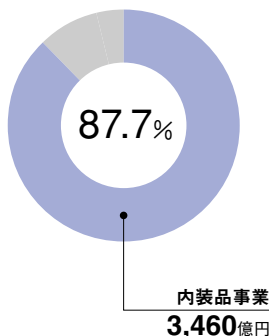
なお、当期の売上高は、減産などの影響により、前第2四半期に比べ1,804億円（△34.3%）減少の3,460億円になりました。

### 内装品事業の売上高推移



### ■ 事業別情報

売上構成 (第85期 (21.4~21.9))



内装システム製品



■ セグメント情報  
株主のみさまへ

□ 地域別情報  
セグメント情報

□ 決算概要

□ トピックス

□ 会社の概況  
トピックス

## フィルター・パワートレイン機器部品事業

世界トップの自動車用フィルターメーカー。  
社会の要請に応える高性能な製品づくりを推進。

当社グループの源流事業である繊維技術を生かして、世界をリードするフィルトレーション技術の向上に努め、エンジン吸気系システム製品や、エレメント交換型オイルフィルターなどのエンジン潤滑系製品、車室内空調系フィルター製品などの生産を行っています。性能向上や低コスト化に加え、モジュール化、システム化、環境対応、快適性向上など、社会のニーズにマッチした、付加価値の高い新製品の開発と生産に取り組んでいます。

なお、当期の売上高は、前第2四半期に比べ81億円(△19.7%)減少の335億円になりました。

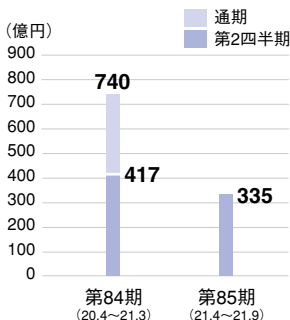


吸気システム製品

### ■主な製品

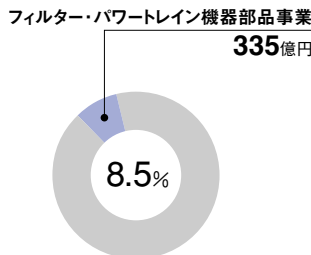
オイルフィルター／エアフィルター／  
キャビンエアフィルター／オートマチック  
トランスミッションフルード用フィルター／  
HC吸着フィルター／エアクリナー／  
インテークマニホールド／エアクリナー  
一体型シリンダーヘッドカバー／  
ABSコイル

フィルター・パワートレイン機器部品事業  
の売上高推移



### ■事業別情報

売上構成 (第85期 (21.4~21.9))



## 繊維・外装品他事業

時代のニーズを先取りして新規素材の開発と  
環境にやさしい製品づくりに力を注ぐ。

繊維事業では、エアバッグ用布製品、シートファブリックや天井表皮材、高機能ユニフォームなどの分野で新規素材開発を行う一方、環境にやさしい製品づくりに取り組んでいます。今後は内装品事業との連携を深めて技術開発力の強化、シートファブリックのデザイン強化を図ります。また、外装品の分野では高度な安全性が求められる補給用バンパー、剛性に優れコスト競争力を持つフェンダーライナーやエンジンアンダーカバーの生産を行っています。

なお、当期の売上高は、前第2四半期に比べ74億円(△33.1%)減少の149億円になりました。

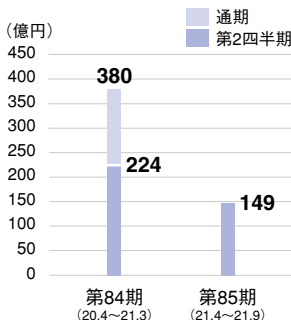


シートファブリック

### ■主な製品

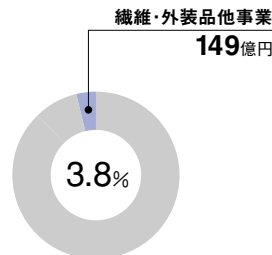
パーティションネット／  
カーテンシールドエアバッグ／  
ストラップベルト／シートベルトウェビング／  
補給用バンパー／フェンダーライナー／  
エンジンアンダーカバー／  
各種ユニフォーム

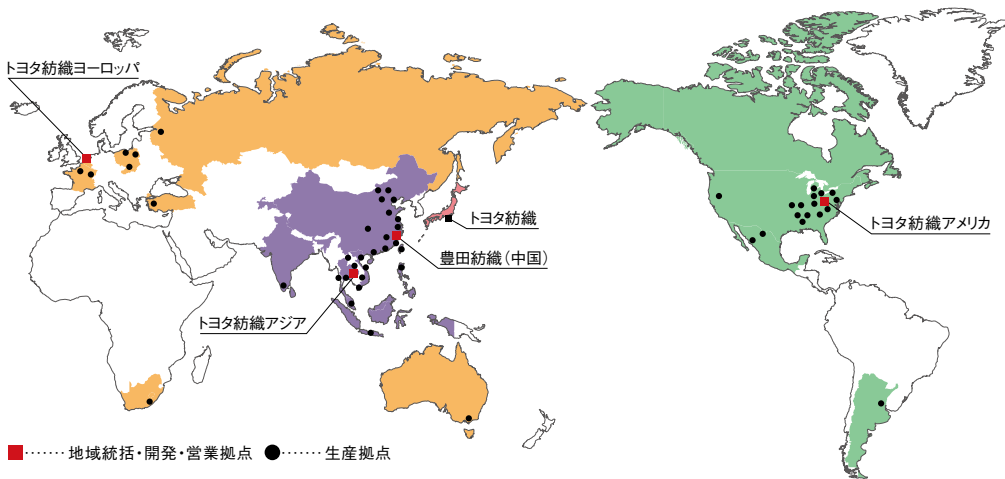
繊維・外装品他事業の売上高推移



### ■事業別情報

売上構成 (第85期 (21.4~21.9))





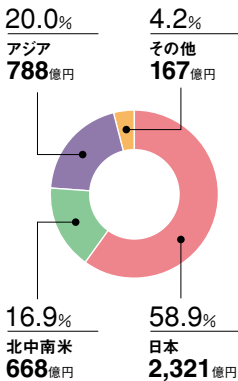
■連結子会社および関連会社

	子会社	関連会社
日本	16社(16社)	5社(5社)
北中南米	26社(26社)	0社(0社)
アジア	24社(24社)	4社(4社)
その他	9社(9社)	2社(2社)

(平成21年9月30日現在)

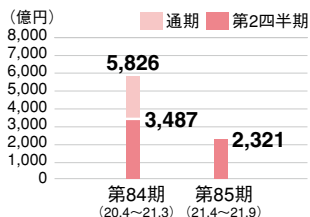
( )内は前期末

■地域別売上高の概況



売上高の推移

日本売上高の推移



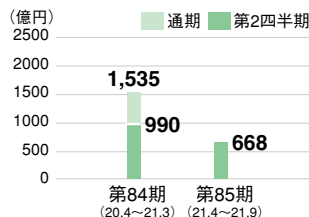
■日本

ハイランダー・ランドクルーザー・エスティマ向け製品等の生産減によって、売上高は前第2四半期に比べ1,165億円(△33.4%)減少の2,321億円になりました。固定費削減などを行ったものの、減産減収の影響や減価償却費の増加などによって、前第2四半期27億円の営業利益から67億円減少の40億円の営業損失になりました。

■北中南米(アメリカ・カナダ・メキシコ・アルゼンチンなど)

RAV4向け製品の生産開始などはあったものの、他車種向け製品の生産減によって、売上高は前第2四半期に比べ322億円(△32.5%)減少の668億円になりました。売上減少による利益減少などに伴い、前第2四半期1億円の営業利益から67億円減少の65億円の営業損失になりました。

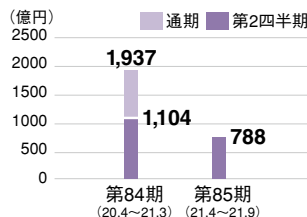
北中南米売上高の推移



■アジア(中国・タイ・ベトナム・フィリピン・インドネシア・インドなど)

中国におけるクラウン・カローラ向け製品の生産減などの影響から、売上高は前第2四半期に比べ316億円(△28.6%)減少の788億円になりました。なお営業利益は、合理化などを行ったものの、減産減収や為替の影響に伴い、前第2四半期に比べ85億円(△46.7%)減少の97億円になりました。

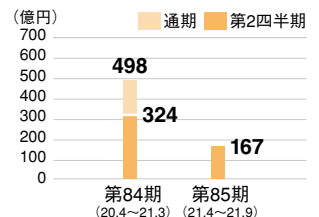
アジア売上高の推移



■その他(ベルギー・トルコ・南アフリカ・オーストラリアなど)

市場低迷による大幅な減産から、売上高は前第2四半期と比べ157億円(△48.5%)減少の167億円になりました。売上減少による利益減少に伴い、前第2四半期17億円の営業利益から21億円減少の4億円の営業損失になりました。

その他地域売上高の推移





## ■連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (平成21年9月30日)	〈参考〉前期末 (平成21年3月31日)	科目	当第2四半期末 (平成21年9月30日)	〈参考〉前期末 (平成21年3月31日)
<b>【資産の部】</b>			<b>【負債の部】</b>		
<b>流動資産</b>			<b>流動負債</b>		
現金及び預金	46,303	51,206	支払手形及び買掛金	127,467	91,402
受取手形及び売掛金	122,231	80,987	短期借入金	10,484	11,505
有価証券	39,409	55,478	1年内返済予定の長期借入金	369	564
商品及び製品	4,519	4,520	未払法人税等	2,152	1,965
仕掛品	12,558	12,619	製品保証引当金	1,589	1,677
原材料及び貯蔵品	14,349	16,567	役員賞与引当金	55	92
その他	33,248	27,063	その他	36,788	38,143
貸倒引当金	△ 800	△ 833	<b>流動負債合計</b>	<b>178,908</b>	<b>145,351</b>
<b>流動資産合計</b>	<b>271,820</b>	<b>247,610</b>	<b>固定負債</b>		
<b>固定資産</b>			長期借入金	106,758	107,013
<b>有形固定資産</b>			退職給付引当金	21,443	21,040
建物及び構築物(純額)	69,779	65,078	役員退職慰勞引当金	742	688
機械装置及び運搬具(純額)	74,596	72,994	その他	2,798	3,372
その他(純額)	44,903	48,384	<b>固定負債合計</b>	<b>131,742</b>	<b>132,116</b>
<b>有形固定資産合計</b>	<b>189,279</b>	<b>186,457</b>	<b>負債合計</b>	<b>310,651</b>	<b>277,467</b>
<b>無形固定資産</b>			<b>【純資産の部】</b>		
のれん	3,864	4,384	<b>株主資本</b>		
その他	767	956	資本金	8,400	8,400
<b>無形固定資産合計</b>	<b>4,631</b>	<b>5,341</b>	資本剰余金	9,122	9,122
<b>投資その他の資産</b>			利益剰余金	154,749	162,658
投資有価証券	7,061	7,330	自己株式	△ 4,052	△ 3,055
その他	19,643	19,932	<b>株主資本合計</b>	<b>168,219</b>	<b>177,125</b>
貸倒引当金	△ 423	△ 165	<b>評価・換算差額等</b>		
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>26,281</b>	<b>27,096</b>	その他有価証券評価差額金	774	653
<b>固定資産合計</b>	<b>220,192</b>	<b>218,895</b>	為替換算調整勘定	△ 18,424	△ 19,775
<b>資産合計</b>	<b>492,012</b>	<b>466,506</b>	<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>△17,650</b>	<b>△19,122</b>
			<b>新株予約権</b>	<b>540</b>	<b>402</b>
			<b>少数株主持分</b>	<b>30,251</b>	<b>30,632</b>
			<b>純資産合計</b>	<b>181,361</b>	<b>189,038</b>
			<b>負債純資産合計</b>	<b>492,012</b>	<b>466,506</b>

## ■連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当第2四半期累計 (自平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	(参考)前第2四半期累計 (自平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>394,604</b>	<b>590,716</b>
売上原価	370,455	541,826
<b>売上総利益</b>	<b>24,148</b>	<b>48,890</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>		
給料及び賞与	10,097	9,233
その他	14,043	15,733
販売費及び一般管理費合計	<b>24,141</b>	<b>24,966</b>
<b>営業利益</b>	<b>6</b>	<b>23,923</b>
<b>営業外収益</b>		
受取利息	508	1,094
持分法による投資利益	203	1,024
その他	1,815	2,680
営業外収益合計	<b>2,527</b>	<b>4,798</b>
<b>営業外費用</b>		
支払利息	893	927
為替差損	2,957	—
その他	1,766	1,542
営業外費用合計	<b>5,617</b>	<b>2,470</b>
<b>経常利益又は経常損失(△)</b>	<b>△ 3,083</b>	<b>26,251</b>
<b>税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)</b>	<b>△ 3,083</b>	<b>26,251</b>
法人税、住民税及び事業税	3,163	7,246
法人税等調整額	△ 1,320	△ 2,122
法人税等合計	1,843	5,124
少数株主利益	2,050	5,177
<b>四半期純利益又は四半期純損失(△)</b>	<b>△ 6,977</b>	<b>15,950</b>

 セグメント情報  
 株主のみなさまへ

 地域別情報  
 セグメント情報

 決算概要

 トピックス

 会社の概況  
 トピックス

## 事業展開

## 関東シート製作所を子会社化し、宮城県に工場新設

平成21年10月1日、関連会社である株式会社関東シート製作所を子会社化しました。また、これを機に同社は社名を「トヨタ紡織東北株式会社」に変更しました。トヨタ紡織東北は、平成22年8月に宮城県黒川郡大衡村おおひらに新工場を建設し、セントラル自動車株式会社宮城工場に納入する自動車内装部品を生産する計画です。なお、平成21年8月3日には、宮城県庁で宮城県、大衡村、関東シート製作所による新工場の立地協定締結式が行われました【写真】。



左から宮城県村井知事、関東シート製作所（現トヨタ紡織東北）の柴田社長、豊田社長、宮城県大衡村跡部村長



平成22年8月に竣工予定のトヨタ紡織東北宮城工場（イメージ）



トヨタ紡織、川島織物セルコン、豊田通商が内装材事業統合で基本合意  
中央はTBカワシマ社長に就任予定の当社栗谷本顧問

## 輸送機器用内装材事業の統合・新会社設立で基本合意

平成21年6月、当社と株式会社川島織物セルコン、豊田通商株式会社は、輸送機器用内装材事業を統合し、新会社を設立することで基本合意しました。今回の事業統合は、競争激化やグローバル化が進む輸送機器用の内装材業界において、3社が持つ強みを生かし、相互補完・相乗効果を発揮して事業競争力の向上とグローバル展開の強化を狙ったものです。新会社の社名は「TBカワシマ株式会社」で、平成22年4月に設立する予定です。なお、新会社ではシート・ドア用ファブリック、天井材、その他内装材を生産する計画です。



## トヨタ紡織インディアナが自動車用内装部品の生産を開始

平成19年7月設立のトヨタ紡織インディアナ(アメリカ インディアナ州、以下TBIN)が、平成21年9月シート部品の生産を開始しました。TBINで生産するハイランダーのシートフレーム、シートウレタンは、トヨタ紡織グループのオートモーティブ・テクノロジー・システムズ(アメリカ イリノイ州、以下ATS)でシートに組み立てた後、トヨタ・モーター・マニュファクチャリング・インディアナ<sup>※1</sup>(TMMI)に納入します。

当社では、平成20年秋以降、厳しい環境変化に対応するために北米での事業再編を行っています。インディアナ地区ではTBIN、トータル・インテリア・システムズ・アメリカ<sup>※2</sup>、ATSの3社で最適な生産・物流を構築、効率的な運営を目指します。



トヨタ紡織インディアナ

※1 トヨタ自動車株式会社の北米の生産拠点

※2 トヨタ紡織グループの生産会社で、TMMIに納入するシエナのシート、ドアトリムを生産

## 富士裾野工場が生産を開始

建設を進めてきた富士裾野工場(静岡県裾野市)が平成21年8月竣工し、御殿場工場からシートおよびドアトリムを移管し、生産を開始しました。当社は国内工場の生産効率化、最適供給体制の構築を図っており、御殿場工場の再編および富士裾野工場への生産移管はその一環として行ったものです。



富士裾野工場

## 社会貢献

### 宮城県と「わたしたちの森づくり事業」の協定を締結

トヨタ紡織グループが初めて宮城県に工場を設立することになったのを機に、平成21年8月3日、宮城県と「わたしたちの森づくり事業」の協定を締結しました。「トヨタ紡織グループ『環境の森』<sup>おおひら</sup>大衡」として活動をスタートしています。協定期間は5年間で、宮城県黒川郡大衡村の東北自動車道沿いにある県有林15ヘクタールの森林整備活動を支援します。工場稼働後は、社員やその家族による「森づくり活動(植栽、森林整備、地域交流)」、社会貢献活動の場として活用することを予定しています。



宮城県村井知事と豊田社長

## 技術

## 軽量化と乗り心地性能を両立させた 新世代シート骨格を開発

新世代シート骨格  
TB-NF110  
(マニュアル)



燃費向上に寄与する軽量な新世代シート骨格「TB-NF110（電動・マニュアル）」を開発しました。従来型骨格と比較して軽量化・省資源化を図りながらも、乗員の座圧やホールド性能などの最適化に取り組み、乗り心地を向上させた骨格構造が大きな特長です。電動仕様はトヨタ自動車株式会社

の新型ランドクルーザープラド、マニュアル仕様は新型プリウスなどに採用されました。

## 植物材料を活用した新たな自動車部品を開発

石油原料の一部を植物原料に置き換えた「エコプラスチック」を活用して、シートクッション、ラゲージトリムなどを開発しました。植物原料を使用することで、製造から廃棄までのライフサイクルでCO<sub>2</sub>排出量を抑制するとともに、石油資源の使用量低減にも寄与します。これらの製品はトヨタ自動車株式会社の新型プリウスやレクサスHS250hに採用されました。また、



ひまし油を活用したシートクッション

市販車での実用化を目指して新たな内装部品の開発も行っています。これらは、トヨタ自動車のパーソナルモビリティ「i-REAL」<sup>アイリアル</sup>に採用されています。

## 新シートアレンジメントを開発

機能性に優れた「フロア格納サードシート（電動・手動）」を開発しました。これはシート格納時に、背もたれと座面を上下に重ねることなく、フラットにデッキボード内に格納することができるものです。電動格納機構は世界初です。ラゲージスペースの容積拡大に寄与するとともに、操作性も向上しました。トヨタ自動車株式会社の新型ランドクルーザープラドに採用されました。



フロア格納サードシート（電動）

## 水平対向エンジン用の樹脂製インマニを開発

軽量化による燃費性能向上、およびCO<sub>2</sub>排出量削減を目的に、水平対向エンジン用の「樹脂製インテークマニホールド（インマニ）」を開発しました。この製品は富士重工業株式会社の新型レガシイに採用されました。当社が富士重工業からインマニを受注するのは今回が初めてです。この樹脂製インマニは、材料に樹脂を採用することによって、従来のアルミ製と比較して約60%の軽量化を達成しました。

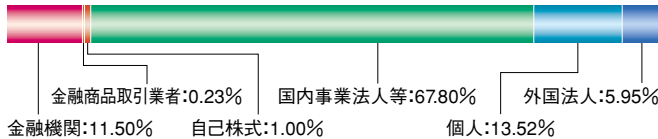


水平対向エンジン用樹脂製インテークマニホールド

■株式の総数 …… 発行可能株式総数 500,000,000株  
発行済株式の総数 187,665,738株

■株主数 …… 18,206名

■所有者別株式分布状況

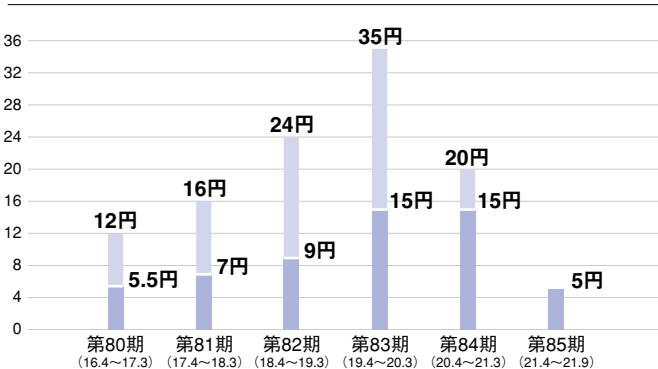


■大株主(上位10位)

株主名	株式数
トヨタ自動車株式会社	73,873,995株
東和不動産株式会社	18,346,209株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	10,809,200株
株式会社デンソー	10,192,100株
株式会社豊田自動織機	7,756,062株
日本発条株式会社	7,220,500株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	5,482,100株
豊田通商株式会社	4,367,100株
トヨタ紡織従業員持株会	1,734,619株
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,142,400株

(注) 上記のほか、当社が所有している自己株式1,876千株があります。

■配当金の推移



■会社データ

設立 …… 昭和25年5月  
資本金 …… 8,400百万円  
従業員数 …… 8,005名  
本社 …… 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地

■国内拠点

刈谷工場	猿投工場	豊橋北工場	富士裾野工場
大口工場	藤岡工場	豊橋南工場	東京工場
木曾川工場	下山工場	豊橋東工場	土橋工場
いなべ工場	高岡工場	田原工場	東京営業所
岐阜工場	堤工場	御殿場工場	大阪営業所

■役員一覧

取締役および監査役				執行役員			
取締役 会長	浦西	徳一	常務執行役員	原信	保信	信徹	信徹
取締役 社長	豊田	周平	常務執行役員	田宮	田廣	司匠	司匠
取締役 副社長	野口	満之	常務執行役員	上田	水田	憲一	憲一
取締役 副社長	小野	博祥	常務執行役員	清野	田水	茂夫	茂夫
取締役 副社長	鳥居	立雄	常務執行役員	野三	田水	治和	治和
専務取締役	中川	英夫	常務執行役員	藤宮	杉門	保彦	保彦
専務取締役	川窪	幸一	常務執行役員	杉大	江島	義隆	義隆
常務取締役	古澤	耕次	常務執行役員	山田	江島	弘平	弘平
常務取締役	寺坂	正樹	執行役員	杉大	江島	淳次	淳次
常務取締役	飯田	栄俊	執行役員	杉大	江島	久司	久司
常務取締役	鈴木	充賢	執行役員	杉大	江島	優男	優男
常務取締役	渡井	潔隆	執行役員	杉大	江島	嘉輝	嘉輝
常務取締役	酒井	文一	執行役員	杉大	江島	浩	浩
常務取締役	古田	嘉忠	執行役員	杉大	江島		
取締役(専務待遇)	伊藤	章隆	執行役員	杉大	江島		
取締役(常務待遇)	岡本	司男	執行役員	杉大	江島		
取締役	徳内	一	執行役員	杉大	江島		
取締役	藤内	一	執行役員	杉大	江島		
常勤監査役	伊藤	一	執行役員	杉大	江島		
常勤監査役	石川	一	執行役員	杉大	江島		
監査役	石川	一	執行役員	杉大	江島		
監査役	石川	一	執行役員	杉大	江島		
監査役	石川	一	執行役員	杉大	江島		
監査役	石川	一	執行役員	杉大	江島		

□セグメント情報  
株主のみならず

□地域別情報  
セグメント情報

□決算概要

□トピックス

■会社の概況  
トピックス

## ■株式事務のお取扱いについて

事業年度：4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会：毎年6月

配当金支払株主確定日：3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日

株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社  
および特別口座管理機関

同 連 絡 先：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

- (ご注意)
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
  - 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
  - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## ■株式に関するお手続きについて

### ●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取（買増）請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定*	特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期限経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	[手続き書類のご請求方法] ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479（通話料無料） ○インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

\*特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

### ●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
○上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください	